

教師としての学びを振り返るために

本パンフレットは、北海道教育大学が北海道教育委員会と連携して進める「臨床的研究プロジェクト」のうち、「教育実習指導を通して学び続ける教師：管理職、教育実習生との相互作用から得られるものとは」の成果物として作成されました。教師のみなさんが自分の仕事を振り返るための手助けの1つとなることを目的としています。

振り返るための手がかりとして、教育心理学や教育学、教師教育学において取り上げられている教師として仕事を進めていく上で重要だとされている概念を紹介しました。具体的には①教師としての自信や自律的な学習姿勢など業務に関わる側面、②教育実習指導の振り返りの2つが大きな柱となっています。これらの考え方はそれを数量的に測定するために尺度化されており、本パンフレットの最後にある引用文献を参照することでその尺度の質問項目を知ることができます。多くの場合アンケート形式ですので、それに回答することでご自身の状況を数量的に把握することも可能です。

本パンフレットで取り上げられている考え方は、様々にある「教師」を捉えるための視点の一部です。ご自身の経験を振り返る「きっかけ」の1つとして捉えてもらえればと思います。

2023年3月

北海道教育大学釧路校 臨床的研究プロジェクトチーム

① 教師としての自信や自律的な学習姿勢など，業務に関わる側面

教師効力感

教師効力感とは「子どもの学習や発達に対して肯定的な効果をもたらす教育的行為をとることができるという教師の信念(Ashton, 1985)」と定義される考え方です。教師効力感の高さは，ポジティブな教師行動につながるとされています。この教師効力感は国内外で様々に研究が行われており，大きく「学級経営に関わるもの」「指導に関わるもの」「子どもとの関係づくりに関わるもの」の3側面からなることが分かっています(春原, 2007; TSCANNEN-MORAN & WOOLFOLK HOY, 2001)。

この3つの側面について，どの程度「自分はそれがうまくやれる」と考えているのでしょうか。また，その「やれる／やれない」と考える背景にはどんな経験があるのでしょうか。ご自身の経験を振り返って考えてもらえればと思います。

【学級経営に関わるもの】

例えば・・・

「児童生徒に対して、どの程度わかりやすい発問や質問ができますか？」

【指導に関わるもの】

例えば・・・

「授業中に騒ぐなど、問題行動のある児童生徒をどの程度指導することができますか？」

【子どもとの関係づくりに関わるもの】

例えば・・・

「学校生活において意欲が低い児童生徒に対して、どの程度興味や関心を高めることができますか？」



教師の自律的な学習姿勢(三沢・森安・樋口, 2021)

社会の変化や価値観の多様化に伴い、複雑な教育課題への対応が求められる学校組織において、専門職として自律的に学ぶ教員や教員集団の重要性が繰り返し議論(三沢・森安・樋口, 2021)されています。一方、業務の多さなどでそのような学びを行う物理的・精神的な余裕がとれないことも当然あるでしょう。しかし、自律的な学びが重要であるということ自体には大きな異論は出ないのではないかと思います。

三沢ら(2021)が230名の教師を対象にした研究によると、教師の自律的な学習姿勢には「同僚の経験の取入れ」「児童・保護者の視点の考慮」「前向きな挑戦姿勢」「自己省察」の4つの側面があることが分かっています。また、「自己省察」については、この三沢ら(2021)の研究に限らず、教師の学びにとって重要な要因であることが様々に指摘されています。

自分の業務について日頃どの程度振り返って考えているのか、そしてその際にここにあがっている4つ側面をどの程度意識しているのか、具体的な事例を思い出しながら考えてもらおうと良いと思います。

■振り返り返りの例

最近、同僚の経験を取り入れて行った業務はありますか？それはどんな業務でどのように取り入れたのでしょうか。また、取り入れた結果どのようなことができましたか。振り返って以下に書いてみましょう。

② 教育実習指導の振り返り

この項目は、教育実習生を受け入れて実習指導を行った方向けとなっています。実習指導は業務として負荷の高いものですが、教師教育に関する研究領域では自身の教師としての学びを振り返ったり力量を形成するきっかけになるともいわれています(三島・一柳・坂本, 2021)。ご自身の実習指導を振り返ってこれからは繋げるきっかけにしてもらえればと思います。

教育実習指導を通じた学び(三島・一柳・坂本, 2021)

教育実習指導で実習生と関わる中で、様々なことを感じたり気づいたりすると思います。そのような感覚や気づきを自身の学びに変えていくことが、実習指導をより有意義なものにしていくために重要だと言えるでしょう。

三島ら(2021)が教師 133 名を対象にした研究では、教育実習指導を通じた学びが「負担感」「実習生の課題・経験・既有知識の理解」「実践の振り返り・意欲の喚起」「児童生徒の理解深化・教員自身の学びの見取り」「実習生の意欲・頑張り・成長の理解」「実習指導体制の省察」「実習生指導のあり方の再考」の7つの側面からなることが明らかになっています。実習指導について「負担感」だけではなく、ポジティブな側面も存在することがここから分かります。そして、ポジティブな側面から学ぶことで、今後のご自身の業務をよりよくしていくことも可能かもしれません。実習指導を自らの学びの1つと捉えるきっかけにして頂ければと思います。

■ 実習を引き受けると生じるネガティブな側面

【負担感】

実習指導により授業の時間が減り困る。

■ 実習を引き受けると得られるポジティブな側面

【実習生の課題・経験・既有知識の理解】

実習生のつまずきを理解することができる。

【実践の振り返り・意欲の喚起】

これまでの教員自身の実践を振り返る契機になる。

【児童生徒の理解深化・教員自身の学びの見取り】

実習生の実践を通して、新たな実践のあり方に気づくことができる。



【実習生の意欲・頑張り・成長の理解】

実習生が頑張っていることを知ることができる。

【実習指導体制の省察】

学校の実習体制について課題を認識する。

【実習生指導のあり方の再考】

自身の実習生指導のあり方を見直すことができる。

教育実習指導で身に付いた教師としての力量 (三島・一柳・坂本, 2021)

上記の三島ら(2021)は同じ研究の中で、教育実習指導で身に付いた教師としての力量についても調査しています。上の調査は「何を学んだか」であり、これは「何を身につけたか」と考えるとわかりやすいと思います。調査の結果、先生方が実習指導を通して身につけた力量として「授業実践および実践に関する知識」「児童生徒理解」「授業設計・展開」の3つの側面があることがわかりました。当然、これらをどの程度身につけたかには個人差があると思われます。ご自身の実習指導を振り返って、そこからどんな力が身につけられたかを考えるきっかけにしてもらえればと思います。

教育実習を引き受けることで身に付く力

【授業実践および実践に関する知識】

例えば・・・

児童・生徒に学習課題を持たせる指導

【児童生徒理解】

例えば・・・

学級内の友だち関係とその性質の把握



【授業設計・展開】

例えば・・・

一時間の授業のねらいを明確にした学習指導

出典および引用文献

- Ashton, P. T. (1985). Motivation and teacher's sense of efficacy. In C. Ames & R. Ames (Eds.), *Research on motivation in education: Vol. 2. The classroom meliu* (p.141-174). Orlando, FL: Academic Pres.
- 春原淑雄. (2007). 教育学部生の教師効力感に関する研究—尺度の作成と教育実習にともなう変化—. *日本教師教育学会年報*, 16, 98-108.
- 三沢良・森安史彦・樋口宏治 (2021). 「学び続ける教員」を支える学校組織風土の研究 日本教師教育学会第 29 回大会発表要旨集, 134-135.
- 三島知剛・一柳智紀・坂本篤史. (2021). 教育実習を通じた実習指導教員の学びと力量形成に関する探索的研究. *日本教育工学会論文誌*, 44(4), 535-545.
- Tschannen-Moran, M., & Hoy, A. W. (2001). Teacher efficacy: Capturing and elusive construct. *Teaching and Teacher Education*, 17, 783-805.